

原稿校了後の前兆変化について

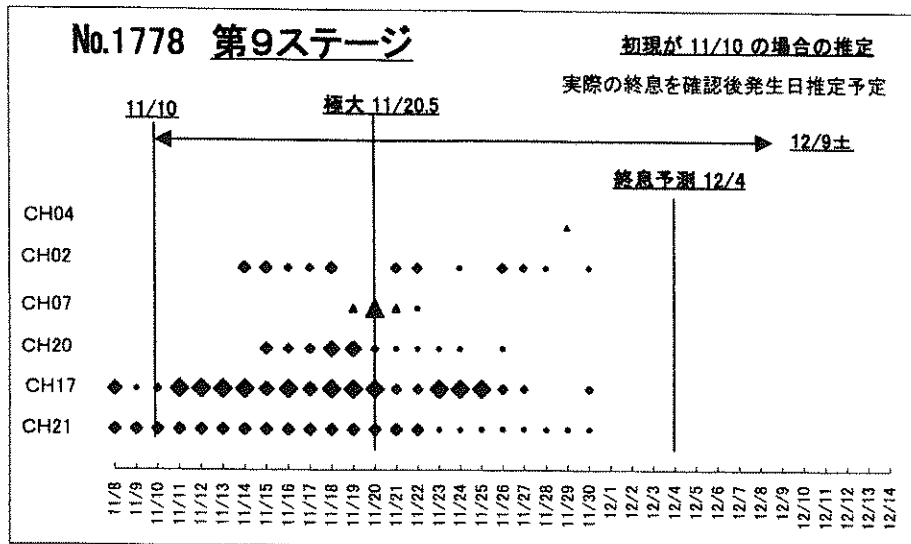
八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254  
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期継続前兆続報 少なくとも12月3日以前の発生は否定可能

本HPの作成運営者の方(公開実験参加者の方が好意で作成して下さい)の出張の都合で11月28日~30日深夜まで、情報更新が不可能でした。

E-mail又はFAXによる「地震前兆検知公開実験・実験観測情報」では、毎日更新情報を配信して参りました。実験観測情報では、11月28日段階で、11月30日の発生はあり得ないことを報告しておりました。

担当の方の出張の都合で、HPの方では情報が更新できなかったことを小生からもお詫び申し上げます。(串田)



11月30日夜7時過ぎ現在での報告

No.1778前兆の第9ステージは、第8ステージ後半がピークの連続であったため(第9ステージの極大11/20を示す変動)、第9ステージの初現認識が難しいことは報告致しました。その中で可能性が考えやすい、CH20(11/15)かCH02(11/14)の初現の可能性を考えました。11/15初現の場合には、11月30日±発生となりますが、その場合には11/28に前兆終息が計算できます。しかし11/28前兆は継続したため、11/30発生の可能性は否定されました。また11/29段階で前兆継続したため、11/2±発生も否定されました。現在は前兆の終息を観測して、11/20極大との関係から(Tfap:Tpp=6:1)を使用して発生日を求める作業となります。本日11/30夜07時段階で継続していたCH21の基線がほぼ静穏となってきました。CH02も静穏維持です。但し、静穏だったCH17が夕刻より特異となっています。次に可能性が考えられるのは、11/10のCH17の特異顕著化を初現とした12月09日±発生の可能性です。その場合は12月04日に終息が確認できるはずとなります。但し、初現の可能性からの推定であり、

12月04日以前に前兆が終息する可能性もあり得ます。明日前兆が終息する可能性もあり得ます。実際の終息を確認して発生日を推定確定したいと考えます。少なくとも現段階では、12月03日以前に対応地震が発生する可能性は否定できます。また更に第9ステージが示す日に次の極大が出現しないかの監視も続行します。明朝以降前兆が継続した場合は、下に示したとおり、各前兆終息日から第9ステージが示す日を推定することになります。今後の実際の観測で続報させて戴きます。

極大認識	終息が仮に下記の場合	推定される日
11月20.5日	11月30.8日	12/4.4 ±
11月20.5日	12月01.6日	12/5.4 ±
11月20.5日	12月02.3日	12/6.4 ±
11月20.5日	12月03.1日	12/7.4 ±
11月20.5日	12月03.8日	12/8.4 ±
11月20.5日	12月04.6日	12/9.5 ±
11月20.5日	12月05.3日	12/10.4 ±

【その他】

当該長期前兆 No.1778以外、大きな被害が予想される巨大地震が推定される前兆は観測されておられません。関東直下、東海・東南海等の巨大地震も推定されません。

◆推定領域: 右図 太線領域内=大枠推定領域  
斜線領域=可能性が考え易い推定領域

◆推定規模: M7.8 ± 0.5

◆推定時期: 実際の前兆終息を観測したのち推定予定  
※仮に12月04日に前兆終息が観測された場合=12月9日±  
(前兆終息が観測された場合は続報で報告予定)

◇推定地震種: 震源が浅い日本列島の地殻地震  
◇推定発生時刻: 午前9時±1(又は午後6時±3)

